



## エロシェンコ、エスペラント、ポーランド



かつて、ある友人から「エロシェンコが札幌を訪問した」というのは誤りではないか」と問い合わせがあった。調べてみると、それはポーランドのシベリア孤児救済のための慈善コンサートを日本各地で開催したマンドリン奏者「イアン・コバリスキー」であると判明した。この初めて聞く人物について調べる中で、北海道ポーランド文化協会や安藤会長と出会い、埼玉大学の澤田和彦教授からも貴重な資料をいただいた。それが、機関誌『POLE』103号(2021.5)への投稿へと繋がり、資料提供や校正で大変お世話になった安藤会長のお人柄と機関誌『POLE』の多岐にわたる分野とレベルの高い記事や投稿に魅了され会員となることにした。

私のポーランドとの関わりはエスペラントの学習から始まる。筑波大学附属視覚特別支援学校を退職する間際、新宿中村屋でウクライナ出身の盲人作家ワシリー・エロシェンコの生誕120周年記念の小さな集いがあった。エロシェンコはかつてこの学校の前身である東京盲学校に留学し、日本の盲人社会にエスペラントを紹介し広める重要な役割を果たした。彼の人生に惹かれ、深く知るためにはエスペラントの学習が必須だと思い、退職後に集中的に学習を開始した。

独習ではなかなか上達しなかったので、中国の海南大学で行われた1か月の集中講座に参加した。お陰で中級レベルに近い読解力と会話力を習得できた。その後、ドイツやフランスでの2週間講座を経て、ポーランドのポズナンで開催されたエスペラント指導者講習会に2度参加した。

アダム・ミツキエヴィチ大学で2週間にわたり、言語学、教授法、文学など多岐にわたる講義や演習がすべてエスペラントで行われた。また、この時にビドゴシュチュ、トルン、ヴロツワフ、ワルシャワへの小旅行も楽しみ、更にピウスツキのアイヌの蠟管を保管していた A.M.マイエヴィチ教授の自宅兼研究室の訪問も実現できた。

これらの活動を経て、エロシェンコがらみで冒頭に書いたような北海道ポーランド文化協会とのご縁ができた。これからも『POLE』を読むのが楽しみだ。

(引田秋生、(社福)視覚障害者支援総合センター理事長、東京都、2024年9月入会)

## そばかす先生のふしぎな学校



入会のきっかけ:2023年1月に安藤先生がポーランド児童文学『クレクス先生のふしぎな学校』の小椋彩さんによる新訳の発売を Facebook で紹介されました。幼少の頃の愛読書であるとコメントしたところ、2月にその本の書評を書いてみませんかとお誘いを頂きました。私の専門は人間工学や自動認識、制御などで、文学は全くの専門外ですので、当初はご遠慮申し上げたのですが、児童文学で、むしろ一般向けにわかり易い内容でよいのでと心強いお言葉を頂き、お引き受けしました。それがポーランド文化協会と会誌 POLE との出会いで、午後のポエジアなど詩を朗読する素敵な定例会やアイヌ研究のブロニスワフ・ピウスツキの活動を知りました。

ポーランドとのなれ初め:小学校の頃(1970年?)に読んだ『そばかす先生の不思議な学校 Academia Pana Kreksa』ヤン・ブジェフバ Jan Brzechwa 著、ヤン・マルチン・シャンツェル J.M. Szancer 挿絵、内田莉莎子訳です。アンデルセンやいろんな童話とつながっている不思議な物語で、想像力の豊かさ、変わった人? の持つ不思議で奥深い感覚を子ども心に宿すことができたのはこの本のおかげです。なかでもシャンツェルの挿絵は、英独仏ともロシアの絵本とも違う独特のタッチで物語の世界を豊かに表現していました。それから50年以上経ってこの本の書評を書く機会を頂き大変感謝しています。小椋さんの背景を調べ原作の忠実な再現に取り組んだ訳と、内田さんの訳を読み比べてとても楽しい時間を過ごさせて頂きました。

ポーランドとの関わり:1988年夏に3か月、ポーランド日本情報工科大学 PJATK: Polsko-Japońska Akademia Technik Komputerowych(当時 PJWSK)の立ち上げに茨城大学から JICA 短期専門家として出向しました。当初はポーランド語を全く知らず、スクレセチコツキの文字や数字の3の発音などに四苦八苦。街の本屋でポーランド=英語の学習書を探して独学、現地スタッフと少し会話ができるようになって、打ち解けて話してもらえたことが楽しい思い出です。

私のパートナーはポーランド人(後年ドイツで出会いました)で、出身のオルシュティン近郊の実家を訪ねたとき、義父がこの人自身はあまり好きではないが日本と関係があるからと、ポーランド共和国建国の父ユゼフ・ピウスツキの肖像画を家に飾って見せてくれました。当時は政治的な関係しか知りませんでしたが、アイヌ研究のブロニスワフ・ピウスツキの弟でもあったのですね。

現在は大学をリタイアし、茨城県ひたちなか市(ネモフィラの丘で有名)在住、北海道での詩の朗読会へ直接の参加は難しいですが、会誌を通じて色んな活動や歴史に近づけたらうれしいです。今後ともよろしく願いいたします。

(住谷秀保、茨城大学工学部元教員、2025年2月入会)



### 私の愛するポーランド映画

ポーランド映画を初めて見たのは、中学生の時、午後の洋画劇場でたまたまやっていた昔のポーランド映画だった。一人の男と店にいる女性は何やら話している。後半、男は政治的理由で追われていて、おしまいには銃で撃たれて野垂れ死にする。それが干し物とゴミの山のようなところで、無様に死んでゆくのだ。衝撃的だった。白黒の映画で、題名は『灰とダイヤモンド』(1958)だった。鮮烈な記憶に残っていたのだが、それがアンジェイ・ワイダの1959年度ヴェネツィア国際映画祭、国際批評家連盟賞を受賞した出世作だと知ったのは、ずっと後になってからだ。しかも、アンジェイ・ワイダが特権的な固有名詞であることも、主演俳優ズビグニエフ・チブルスキーがポーランド映画にとって神話的固有名詞であることも知らなかった。にもかかわらず、その白黒の小さなブラウン管に映し



出された映像の記憶は今日に至るも鮮烈である。私がポーランド映画に改めて出会うのは、1979年の新宿の映画館である。ワイダの名前は憶えていたと思うが、『地下水道』(1957)とポランスキの『水の中のナイフ』(1962)だった。これらの映画も鮮烈な体験をもたらしてくれた。『地下水道』の白黒の画面の中、地下水道の中を歩き回るレジスタンスの人々の絶望的な闘いを描いた映画には痺れたし、『水の中のナイフ』の新鮮な息吹きには率直に感動した。特に指の間にナイフを立てて遊ぶ若者の無軌道さに、新たな世代の躍動を感じざるをえなかった。そして、何よりも音楽のクシシュトフ・コメダのモダン・ジャズの鮮やかな音響に心酔した。私の愛するポーランドの映画監督たち、アンジェイ・ムンク、イエジー・スコリモフスキ、ロマン・ポランスキ、イエジー・カヴァレロヴィッチ、アンジェイ・ワイダ、クシシュトフ・ケシロフスキ… 挙げればきりが無い。(坂尻昌平、映画研究者、札幌大谷大学非常勤講師)



**ご寄付 (2025.4-7) 深謝!**

(1口千円) (3) 田村和子、溝口尚美 (2) 小山内道子 (1.5) 本間公平 (1) 三上和子 (敬称略)

**年会費 (2025.9-26.8) 納入のお願い**

新年度年会費の納入をよろしくお願い申し上げます。

年会費: 一般3,000円、学生1,500円 また、維持会費としてご寄付(1口千円:任意)も承ります。

※ご請求額は個別の納入依頼(振替用紙同封)をご覧ください

- ◆ゆうちょ銀行振替口座【記号】02740 5【番号】19735【加入者名】北海道ポーランド文化協会 (他銀行から送金の場合) 店番(279) 預金種目(当座) 店名(二七九[ニナナキユウ]店) 口座番号(0019735)
  - ◇北洋銀行(本店営業部) 普通預金口座【店番号】028【口座番号】0605084【名義】ホッカイドウポーランドペンカキョウカイ ※「北洋銀行アプリ」を利用すれば、北洋銀行口座間の送金手数料は無料
- ※遠方の方はご寄付(年1,500円)で会誌 POLE の定期読者になることもできます。事務局にお問い合わせください



10/13(月・祝) 中島公園内の豊平館で 定例総会と午後のポエジア を開催します! ..... 1

日本での2週間:プロニスワフ・ピウスツキとアイヌの足跡をたどって(M・バサイ、J・ロドヴィッチ=チェホフスカ)..... 2

《第116回例会》報告 講演&上映「ポーランドと日本:新渡戸稲造とポーランドの偉人たち」(安藤厚)..... 3

ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」を慕って(門間巖)..... 5

《第115回例会》報告 ポーランド名作映画ビデオ鑑賞『水の上のナイフ』(池田光良、坂尻昌平)..... 7

〈新会員のひと言〉エロシエンコ、エスペラント、ポーランド(引田秋生)そばかす先生のふしぎな学校(住谷秀保) 8

「若きポーランド」の息吹(田村和子)..... 9

〈新刊紹介〉若きポーランド 手がかり(小池敏大) クラクフ・ゲッターの薬局(小篠真琴) ソラリス:コミックス(宮風耕治) ロシア文学を学びにアメリカへ? 増補版 屋根の上のバイリンガル(樋口みな子、小池敏大、長屋のり子) いまは、ここがぼくたちの家(齊藤賢人)..... 10

敦賀における人間性のレッスン(シルヴィア・オレーヤージュ&佐藤レミア)..... 15

〈新会員のひと言〉私の愛するポーランド映画(坂尻昌平)..... 16

	発行 北海道ポーランド文化協会		ポーレ編集委員会
	〒060-0018 札幌市中央区北18条西15丁目3-19 安藤方		安藤厚/池田光良
	TEL・FAX 011-556-8834, mail: hokkaidopolandca@gmail.com		熊谷敬子/越野誠
	東京事務所 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-29-309 音響計画(株) 霜田気付		
	TEL 03-6804-1058 FAX 03-6804-6058		